



Title	《資料紹介》『新夕刊』文藝記事目録（一九四七）
Author(s)	斎藤, 理生
Citation	阪大近代文学研究. 2025, 23, p. 53-74
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/101057">https://doi.org/10.18910/101057</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 《資料紹介》『新夕刊』文藝記事目録（一九四七）

斎藤 理生

本稿は、敗戦直後の新聞『新夕刊』に掲載された、一九四七年一月から一二月までの文藝記事の所在を記したものである。『昭和文学研究』第九〇集（二〇二五・三）掲載の拙稿『《資料紹介》『新夕刊』文藝記事目録（一九四六）』に『世にも不思議な新聞社』の輪郭の続編にあたる。

『新夕刊』の概要については、右の資料紹介と、「解説・一九四七年の『新夕刊』と坂口安吾、三島由紀夫』『新潮』二〇二四・七）とを参照されたい。ここでは要点のみ述べておく。『新夕刊』は、一九四六年一月から東京で発行されていた新興夕刊紙であった。創刊時から四七年秋にかけて、小林秀雄、林房雄、河上徹太郎、亀井勝一郎、永井龍男、吉田健一ら、いわゆる鎌倉文士を中心とした、多くの文学者が参画したことで知られる。この約二年間は、当時の他の新聞と同じように、表と裏の二面しかなかったにもかかわらず、文藝文化に関わる記事が積極的に掲載されていた。

吉田健一「世にも不思議な新聞社の話」（『三文紳士』宝文

館、一九五六）など、当時の社内の闊達な雰囲気を語った回想も少なくない。ただし、一九四七年未になると文学者が深く関わることはなくなり、一般的な新聞に近くなる。この二年間の『新夕刊』はほとんど残存しておらず、実際の紙面を確認することは難しい。しかし二〇一四年、日本新聞博物館が多数所蔵していることがわかり、原紙を閲覧する機会が得られた。その中からすでに、小林、坂口安吾、三島由紀夫らの、これまで知られていなかつた資料も発掘してきた（前掲の拙稿二編を参照されたい）。

ただ、『新夕刊』には他にも、亀井、河上、吉田らの全集未収録資料が含まれている。また、菊池寛の将棋に関する隨想や、競馬に関する座談会も、『菊池寛全集』（文藝春秋、一九九三一・一〇〇三）に収められていない。最新の書誌情報を受けた大西良生著・菊池寛記念館編『菊池寛研究年譜』（菊池寛顕彰事業実行委員会、二〇一四）にも記載がない。ちなみに、これらの菊池に関する記事は、いかにも『新

夕刊』らしい内容もある。創刊号の「自由な新聞＝創刊の言葉」（一九四六・一・一八）では「我々は「自由な楽しい新聞」を創る」と、娛樂性が強調されていたからだ。

さらに、林美美子の随想も、全集はもちろん、廣畠研二

『林美美子全文業目録 未完の放浪』（論創社、一九四九）に未記載である。羽田義明「太宰治の結婚」という記事には、太宰のこれまで知られていなかつた談話が含まれる。この他にも、重要な資料が眠つているかもしれない。

一九四七年の『新夕刊』には、多くの新興紙と異なり、連載小説がない。代わりに、林房雄の「文藝日評」をはじめ、多くの評論や隨想が掲載されている点が特徴である。林は六月二十四日の「文藝日評」で、次のように述べている。新夕刊文藝欄もいよいよ五段になつた。文化部長の式場俊三君が去り、昔讀賣にゐた労連の眞野律太君が代つた。副社長の永井龍男、参与の小林秀雄、亀井勝一郎、中野實、吉田健一、漫画部の横山隆一、清水嵐、田川水泡、元文化部長の河上徹太郎、現社会部長の倉光俊夫君なども局内外から大いに手伝つてくれるところになつた。楽しい文藝欄ができるにちがひない。

これだけの顔ぶれがそろつてゐて面白くなかつたらどうかしてゐる。

長くは続かなかつた「楽しい文藝欄」の実態は、はたしてどのようなものであつたのか。さしあたり、文藝関係の記事の掲載日、タイトル、執筆者を記録することで、その輪郭だけでも共有するべきだろうと考えた。

なお、日本新聞博物館も、すべての号を所蔵しているわけではない。特に、一九四七年七月六日から八月一六日にかけての約一か月分がない。したがつて、その期間に発表された文藝記事については不明である。たとえば、第五次『小林秀雄全集』（新潮社、一九〇〇一～一九一〇）には、四七年六月の『新夕刊』に掲載されたと推測されている座談会「旧文學界同人との対話」が収録され、『小林秀雄全集別巻II無私を得る道』（新潮社、一九〇一）の「年譜」や「作品解題」にも記載されている。しかし、四七年六月の紙面に、この座談会は見当たらぬ。そのため、原紙が見つかっていない七月から八月の間に掲載された可能性が高い。一方で、後に掲げている、九月一〇日から一七日まで連載された「文学座談会」は、第五次までの『小林秀雄全集』に未収録で、年譜にも掲載されていないものである。

『新夕刊』にはマンガ、演劇、映画、美術、音楽などの記事もあるが、原則として省略した。四七年九月以降には、一面に丸尾長頸のコラム「茶卓」や、秋山安三郎や眞野律

太らによる「ニュースを追つて」という読物風の署名記事が掲載されている。これらも文藝記事と見ることは可能である。しかし、紙幅を多く取つてしまつたために省略した。

1 20	1 19	1 18	1 16	1 14	1 13	1 11	1 9	1 8	1 7	1 6	1 5	1 4	1 3	1 2	1 23	
①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	
住宅難	吉凶	高価な結婚式	放送種	仮装人生	石橋大臣に	買出し	鑄物	見ぬ恋	新春隨想	我事に於て後悔せず	忘られぬ	名物を一ヶ所に集めて	觀光列車の乗心地	藏書家	玉川一郎	
中野實	含田軒夢聲	宮崎博史	佐瀬利吾郎	辰野隆	高田保	宮崎博史	佐瀬利吾郎	渡邊一夫	高等宜三等	小林秀雄	林美美子	宮崎博史	齋藤昌三	宮崎博史	玉川一郎	
2 2	2 1	2 31	1 30	1 29	1 28	1 27	1 26	1 25	1 24	1 23	1 22	1 21	2 21	1 21	1 21	
②	①	②	①	②	①	②	①	①	①	②	①	②	①	②	①	
文藝日評 (4)	馬鹿ば	世情邪見	文藝日評 (2)	電車性脱臼	文藝日評 (1)	機智	湯屋の話 (上)	湯屋の話 (下)	はじめて	将棋	将棋	将棋	萩原、大野、塚田の実力如何	萩原、大野、塚田の実力如何	佐瀬利吾郎	ダンス流行
詩人問答	馬鹿ば	文藝日評 (3)	スキイ	本道	本道	本道	秋山安三郎	秋山安三郎	秋山安三郎	大野	大野	大野	塚田の実力如何	塚田の実力如何	渡邊一夫	
林房雄	含田軒夢聲	宮崎博史	佐瀬利吾郎	林房雄	佐瀬利吾郎	林房雄	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎	菊池寛	菊池寛	菊池寛	(上) 菊池寛	(上) 菊池寛	玉川一郎	

2 · 3	①	エロスの復讐	亀井勝一郎	林房雄	大内教授談
2 · 4	②	文藝日評 (5) 迷信 籤に就いて	玉川一郎	林房雄	林房雄
2 · 5	①	文藝日評 (6) 挿絵 女のたしなみ	林房雄	溢澤秀雄	佐瀬利吾郎
2 · 6	②	文藝日評 (7) エロス 嘘発見器	林房雄	林房雄	大佛次郎
2 · 7	①	文藝日評 (8) エロス (下) 習字	溢澤秀雄	林房雄	林房雄
2 · 8	②	文藝日評 (9) スリラ 役徳	佐瀬利吾郎	宮崎博史	秋山安三郎
2 · 9	①	文藝日評 (10) スイコ伝 華氏の20度	林房雄	林房雄	秋山安三郎
2 · 10	②	文藝日評 (11) 道鏡 (上) ダンスホール	含宙軒夢聲	林房雄	渡邊夫
2 · 11	①	文藝日評 (12) 道鏡 (中) 大人悪童	玉川一郎	玉川一郎	林房雄
2 · 12	②	文藝日評 (13) 道鏡 (下) 世界共通の文学	木々高太郎	宮崎博史	宮崎博史
2 · 13	①	文藝日評 (13) 道鏡 (下) 世界共通の文学	浅野武男	林房雄	溢澤秀雄
2 · 14	②	文藝日評 (14) 新円小説 不買同盟	溢澤秀雄	林房雄	佐瀬利吾郎
2 · 15	①	文藝日評 (15) 小説の型 昔気質	林房雄	高見順	大佛次郎
2 · 16	②	文藝日評 (16) 似すぎる あまのじやく	林房雄	林房雄	林房雄
2 · 17	①	文藝日評 (17) 間小説 それからそれ	林房雄	林房雄	秋山安三郎
2 · 18	②	文藝日評 (18) 創作 ダンスについて	佐瀬利吾郎	宮崎博史	溢澤秀雄
2 · 19	①	文藝日評 (19) 探偵小説 うけこたえ	林房雄	林房雄	林房雄
2 · 20	②	文藝日評 (20) 批評青年 退職の理由	含宙軒夢聲	林房雄	宮崎博史
2 · 21	①	文藝日評 (21) ユーモア 先生に教える	玉川一郎	玉川一郎	秋山安三郎
2 · 22	②	文藝日評 (22) 夢 納稅風景	木々高太郎	宮崎博史	溢澤秀雄
2 · 23	①	文藝日評 (23) 大浪漫家 (上) 近火	浅野武男	林房雄	林房雄
2 ·	②	文藝日評 (23) 大浪漫家 (上) 文筆家ゼネスト戦術へ 介山と村正	含宙軒夢聲	林房雄	秋山安三郎

2 · 24	東洋の美学	中山義秀	林房雄	鍋一郎	文藝日評 (34) 夢声
2 · 25	① 文藝日評 (24) 大浪曼家 (下) ② 燃料難	芹沢光治良	林房雄	林房雄	文藝日評 (35) 佳作
2 · 25	① 文藝日評 (25) 不感症 ② 一尺六寸について	玉川一郎	林房雄	林房雄	文藝日評 (36) 溜飲
2 · 26	① 文藝日評 (25) 不感症 ② 一尺六寸について	玉川一郎	林房雄	林房雄	文藝日評 (36) 溜飲
2 · 26	① 文藝日評 (26) 佳作 ② 平和の切腹	佐瀬利吾郎	林房雄	林房雄	文藝日評 (37) 苦楽
2 · 27	① 文藝日評 (27) メダカ ② イヌノフグリ	林房雄	高見順	宮崎博史	文藝日評 (37) 苦楽
2 · 28	① 文藝日評 (28) 作文 ② 漫画に就いて	林房雄	高見順	宮崎博史	文藝日評 (38) 源泉 (上)
3 · 1	① 文藝日評 (29) 天皇創造 ② 断酒	宮崎博史	林房雄	宮崎博史	文藝日評 (38) 源泉 (上)
3 · 2	① 文藝日評 (30) 詩と眞実 (上) ② 燃料譚	林房雄	含宙軒夢聲	林房雄	林房雄
3 · 3	① 文藝日評 (31) 詩と眞実 (中) ② 民主社長	玉川一郎	林房雄	玉川一郎	林房雄
3 · 4	① 文藝日評 (32) 詩と眞実 (下) ② 帽子愛用	宮崎博史	玉川一郎	玉川一郎	林房雄
3 · 5	① 文藝日評 (33) 緑波 ② 売り声	佐瀬利吾郎	林房雄	佐瀬利吾郎	林房雄
3 · 16	文藝日評 (34) 夢声	林房雄	林房雄	林房雄	林房雄
3 · 16	文藝日評 (35) 佳作	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎
3 · 16	文藝日評 (36) 溜飲	佐瀬利吾郎	佐瀬利吾郎	佐瀬利吾郎	佐瀬利吾郎
3 · 16	文藝日評 (37) 苦楽	林房雄	林房雄	林房雄	林房雄
3 · 16	文藝日評 (38) 源泉 (上)	宮崎博史	宮崎博史	宮崎博史	宮崎博史
3 · 16	文藝日評 (39) 夢声	林房雄	林房雄	林房雄	林房雄
3 · 16	文藝日評 (40) 力作	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎
3 · 16	文藝日評 (41) 忠言	林房雄	林房雄	林房雄	林房雄
3 · 16	文藝日評 (42) 地獄絵	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎
3 · 16	文藝日評 (43) 嘴呼!	佐瀬利吾郎	佐瀬利吾郎	佐瀬利吾郎	佐瀬利吾郎
3 · 16	春の競馬を語る (1) 第一回の本馬場	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎
3 · 16	池窪・田中和一郎・岡田光一郎 (以下出席者略)	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎
3 · 16	春の競馬を語る (2)	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎
3 · 16	トキノミドリとトキノホシ	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎	玉川一郎



モンペはやめて	邦正美	4・24	子供の悪戯	文藝日評	断地獄篇
四月の磯にて	石塚友二	4・25	名演説	文藝日評	追放
文芸日評 新劇 (中)	林房雄	4・27	智能検査	文藝日評	短篇小説
大きな名刺	宮崎博史	4・27	②	文藝日評	火災恐怖症
文芸日評 新劇 (下)	林房雄	4・28	②	文藝日評	鏡の園
文芸日評 最高峰	林房雄	4・29	②	文藝日評	片隅
文芸日評 通俗	林房雄	4・29	②	文藝日評	けれども地球は
笑つて答へず	河盛好藏	4・29	②	文藝日評	立野信之
文芸日評 啓蒙	林房雄	4・29	②	文藝日評	坂口安五郎
文芸日評 怪奇小説	林房雄	4・29	②	文藝日評	林房雄
精神と選挙風景	林房雄	4・29	②	文藝日評	大佛次郎
文芸日評 賀辞 (上)	丹羽文雄	4・30	②	文藝日評	林房雄
新しい区長	林房雄	4・30	②	文藝日評	野沢宗一
文芸日評 賀辞 (中)	芝木好子	5・1	②	文藝日評	石塚友二
エロチシズム	林房雄	5・1	②	文藝日評	林房雄
文芸日評 賀辞 (下)	舟橋聖一	5・2	②	文藝日評	石塚友二
文芸日評 冒險小説	林房雄	5・2	②	文藝日評	林房雄
十年の小計	上司小剣	5・3	①	御用心	吉野秀雄
文藝日評 蜜蜂と蟻	林房雄	5・3	①	文藝日評 恋文	佐藤春夫
文藝日評 日本国新憲法	宮崎博史	5・4	②	新憲法の讃歌	林房雄
文藝日評 中央小説	宮崎博史	5・4	②	日本国新憲法	吉野秀雄
文藝日評 二ども新語	宮崎博史	5・4	②	中央小説	吉野秀雄











情熱あるウソ 大衆文学の在り方 今井達夫

私と短歌 (上)

川上喜久子

9・2 (2) 文藝日評—170—通俗論

林房雄

9・3 (2) 私と短歌 (中)

川上喜久子

9・3 (2) 文藝日評—171—三十代 (1)

林房雄

9・4 (2) ユーモア論

龜井勝一郎

9・4 (2) 私と短歌 (下)

川上喜久子

9・5 (2) 文藝日評—172—三十代 (2)

林房雄

9・5 (2) 琴を恋ふ

堤千代

9・5 (2) 美しい話し方

岡本太郎

9・5 (2) 文藝日評—173—三十代 (3)

林房雄

9・5 (2) 新人は語る 上 何れも箱庭小説

小笠原貴雄

9・6 (2) 人間電気

川路柳虹

9・6 (2) 文藝日評—174—三十代 (4)

林房雄

9・6 (2) 新人は語る 中 雑誌へ哀訴

小笠原貴雄

9・6 (2) 二号の問題

寺崎浩

9・7 (2) 生活の音楽

野村光一

9・7 (2) 文藝日評—175—三十代 (5)

林房雄

9・7 (2) 放送局に就て (上)

石川達三

9・7 (2) 新秋小吟

吉野秀雄

出でよ戦争文学 新人は語る 下

小笠原貴雄

9・8 (2) 邪教と科学的知識

森口多里

9・8 (2) 文藝日評—176—蒙昧論 (1)

林房雄

9・8 (2) 放送局に就て (下)

石川達三

9・9 (2) 露伴と台湾文学

西川満

9・9 (2) 貿易と藝術

正木篤三

9・9 (2) 文藝日評—177—蒙昧論 (2)

林房雄

9・9 (2) 当選短篇小説 修行僧たち

室町たかし

9・10 (2) 文化の整理

平山蘆江

9・10 (2) 文学座談会 今は小説時代 批評家は天の

邪鬼 小林秀雄 舟橋聖一 龜井勝一

9・10 (2) 文学座談会 2 娯楽も修業だ まづ近いところから

岡山巖

9・11 (2) 新仮名遣に反対す

春野鶴

9・11 (2) 文藝日評—178—蒙昧論 (3)

林房雄

9・11 (2) 文学座談会 2 娯楽も修業だ まづ近いところから

吉田健一

9・12 (2) 文藝日評—179—蒙昧論 (4)

林房雄

9・12 (2) 文学座談会 3 宗達の画 ふかい喜びがある

			期』を読む	吉田健一
9・13	②	文藝日評—180—蒙昧論（終）	林房雄	本多顕彰
9・14	②	文学座談会 4 なぜ歌舞伎は 古典に祭りあげられたか	林房雄	
9・15	②	文藝日評—181—健康探偵小説	林房雄	
9・16	②	文学座談会 5 古典文学の美 歌舞伎はほろびず	林房雄	
9・17	②	文藝日評—182—煽情小説	林房雄	
9・18	②	文学座談会 6 現代の黙阿弥 川口松太郎を認める	林房雄	
9・19	②	文藝時評 通俗に就いて	北條誠	読書晶滴 上 紙魚の冤罪 西川満
9・20	①	文藝日評—183—愛國主義	林房雄	川柳時評 2 川柳人クラブの意義 石原青龍
9・21	②	当選短篇小説 孝行息子	高麗由貴夫	人生日評 幸福とは何？ 帆足理一郎
9・22	②	さくらの花』桑港抒情集のうち 串カツと文学	土橋治重	農村文化の将来 新関良三
		文藝日評—184—道学者論（1）	土師清一	読書晶滴 中 紙魚の冤罪 西川満
		文学座談会（終） 詰らぬ藝術祭 觀覧料はきつと上る	林房雄	川柳時評 2 川柳人クラブの意義 石原青龍
		パリの美	佐藤敬	人生日評 幸福とは何？ 帆足理一郎
		文藝日評—185—道学者論（2）	林房雄	戦後の日本に关心 “中国青年” の動向をかたる謝泳心女氏
		書評 本格小説の在り方	神西清氏『恢復	文藝日評—187—道学者論（4） 林房雄
				新人发掘について 福田清人
				読書晶滴 下 紙魚の冤罪 西川満
				文藝日評—188—道学者論（終） 林房雄
				文藝時評 小説と年齢 大林清
				婦人雑誌評 女学生雑誌の視野 古谷綱武
				川柳時評 龍寶寺再建寄進問題 石原青龍
				文藝時評 中 戯作精神に就いて 大林清
				堺さんと上司さん—亡き人々の思ひ出



10 · 9 ②	10 · 8 ②	10 · 7 ②	10 · 6 ②	10 · 5 ②	10 · 4 ②	10 · 3 ②	10 · 2 ②	10 · 1 ②	10 · 0 ②
時代小説に就いて 文藝日評——205——抗議(1)	時代小説に就いて 文藝日評——204——漫画	放送余韻(下) 文藝日評——203——小説伝統(下)	大衆雑誌評(5) ピカソと体力	西洋美術名作展に就て 放送余韻(下)	大衆雑誌評(4) ドイツ映画の復興	著作権侵害 近代美術館の構想	文藝日評——202——小説伝統(上) 放送余韻(上)	文藝日評——201——日本小説 "文學"といふ職業	大衆雑誌評(3) ホープ
林房雄 貞金敏明	林房雄	宮崎博史 南江治郎	宮崎博史 太田良介	谷川徹三 林房雄	宮座博史 大庭勝一郎	南江治郎 龟井勝一郎	林房雄 西川満	吉田健一 森岩雄	坂本徳松 宮崎博史
林房雄	林房雄	宮崎博史 太田良介	宮座博史 太田良介	谷川徹三 南江治郎	宮座博史 太田良介	南江治郎 龟井勝一郎	林房雄 西川満	吉田健一 森岩雄	坂本徳松 吉田健一
女に 安島公治	女に 安島公治	文壇と十五年——思ひ出の作家の顔(上) 文藝と十五年——忠ひ出の作家の顔(下)	文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(中) 文壇と十五年——思ひ出の作家の顔(下)	文藝日評——208——低脳の解説 大概の小説は必ず映画化	文藝日評——207——抗議(3) 文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(中)	重の井 田中秀一	重の井 田中秀一	文壇と十五年——思ひ出の作家の顔(上) 文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(中)	文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(上) 文壇と十五年——思ひ出の作家の顔(中)
10 · 9 ②	10 · 8 ②	10 · 7 ②	10 · 6 ②	10 · 5 ②	10 · 4 ②	10 · 3 ②	10 · 2 ②	10 · 1 ②	10 · 0 ②
時代小説に就いて 文藝日評——205——抗議(1)	時代小説に就いて 文藝日評——204——漫画	放送余韻(下) 文藝日評——203——小説伝統(下)	大衆雑誌評(5) ピカソと体力	西洋美術名作展に就て 放送余韻(下)	大衆雑誌評(4) ドイツ映画の復興	著作権侵害 近代美術館の構想	文藝日評——202——小説伝統(上) 放送余韻(上)	文藝日評——201——日本小説 "文學"といふ職業	大衆雑誌評(3) ホープ
林房雄 貞金敏明	林房雄	宮崎博史 南江治郎	宮崎博史 太田良介	谷川徹三 林房雄	宮座博史 太田良介	南江治郎 龟井勝一郎	林房雄 西川満	吉田健一 森岩雄	坂本徳松 吉田健一
女に 安島公治	女に 安島公治	文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(下) 文藝と十五年——忠ひ出の作家の顔(中)	文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(中) 文壇と十五年——思ひ出の作家の顔(下)	文藝日評——208——低脳の解説 大概の小説は必ず映画化	文藝日評——207——抗議(3) 文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(中)	重の井 田中秀一	重の井 田中秀一	文壇と十五年——思ひ出の作家の顔(上) 文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(中)	文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(上) 文壇と十五年——思ひ出の作家の顔(中)
10 · 9 ②	10 · 8 ②	10 · 7 ②	10 · 6 ②	10 · 5 ②	10 · 4 ②	10 · 3 ②	10 · 2 ②	10 · 1 ②	10 · 0 ②
時代小説に就いて 文藝日評——205——抗議(1)	時代小説に就いて 文藝日評——204——漫画	放送余韻(下) 文藝日評——203——小説伝統(下)	大衆雑誌評(5) ピカソと体力	西洋美術名作展に就て 放送余韻(下)	大衆雑誌評(4) ドイツ映画の復興	著作権侵害 近代美術館の構想	文藝日評——202——小説伝統(上) 放送余韻(上)	文藝日評——201——日本小説 "文學"といふ職業	大衆雑誌評(3) ホープ
林房雄 貞金敏明	林房雄	宮崎博史 南江治郎	宮崎博史 太田良介	谷川徹三 林房雄	宮座博史 太田良介	南江治郎 龟井勝一郎	林房雄 西川満	吉田健一 森岩雄	坂本徳松 吉田健一
女に 安島公治	女に 安島公治	文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(下) 文藝と十五年——忠ひ出の作家の顔(中)	文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(中) 文壇と十五年——思ひ出の作家の顔(下)	文藝日評——208——低脳の解説 大概の小説は必ず映画化	文藝日評——207——抗議(3) 文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(中)	重の井 田中秀一	重の井 田中秀一	文壇と十五年——思ひ出の作家の顔(上) 文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(中)	文壇と十五年——忠ひ出の作家の顔(上) 文壇と十五年——思ひ出の作家の顔(中)









12 ・ 12	② 小説の運命 一九四七年の文壇回顧 (5)	亀井勝一郎	12 ・ 12	② 権利金	鷺尾洋三
12 ・ 13	文藝時評 小説の面白さ	大竹正巳	12 ・ 21	書評 中川一政の二著	武者小路実篤
12 ・ 13	ほろびしものはなつかしきかな 2 仲木信一 ともしひ (下)	壺井栄	12 ・ 22	② 苦悩にあえぐ	十返肇
12 ・ 13	② 評論界の新人 一九四七年の文壇回顧 (6)	亀井勝一郎	12 ・ 23	② ほろびしものはなつかしきかな 5 仲木信一 ましこ焼	伊福部敬子
12 ・ 14	ほろびしものはなつかしきかな 3 仲木信一 ② 文藝雑誌の読者 一九四七年の文壇回顧 (7)	亀井勝一郎	12 ・ 24	② 文藝 関心=教師について= 泉木三樹 当選短篇小説 空洞	津木隆
12 ・ 15	米映画覆面座談会☆問題の "失われた週末"	亀井勝一郎	12 ・ 25	自殺=中国隨筆= 春野鶴	一城龍彦
12 ・ 15	② 一九四七年の文壇回顧 (8) 当用漢字と新 仮名遣ひ	亀井勝一郎	12 ・ 24	② 文藝 銅像文化	石敢当
12 ・ 16	ほろびしものはなつかしきかな 4 仲木信一 ② 当選短篇小説 狐と狸	山口里津子	12 ・ 25	ほろびしものはなつかしきかな 6 仲木信一 小新聞の氾濫と上海化	三宅正太郎
12 ・ 17	不合理に就て	寺崎浩	12 ・ 26	② 作家の印象 (1) 川端康成氏	村上知行
12 ・ 17	② 文藝 "兵" 一色	石原裕市郎	12 ・ 26	ほろびしものはなつかしきかな 7 仲木信一 庶民の生活	三宅正太郎
12 ・ 18	アメリカ文学の地方主義 (上) 都市文化と 地方文化	細入藤太郎	12 ・ 27	② 作家の印象	船越章
12 ・ 18	② アメリカ文学の地方主義 (下) 作家の地方 分布図	細入藤太郎	12 ・ 27	ラジオ解説 歴史をたぐる—新聞小説につ いて (上)	三宅正太郎
12 ・ 18	細入藤太郎	細入藤太郎	12 ・ 27	ほろびしものはなつかしきかな 8 仲木信一 作家の印象 (3)	三宅正太郎
12 ・ 18	細入藤太郎	細入藤太郎	12 ・ 19	ラジオ解説 問題は作家の態度—新聞小説 について (下)	船越章

風呂 II 中國隨筆 II

春野鶴

12  
•  
28

## ② 藤村文学の劇化成り

八二

【附記】本論はJSPS科研費20K00346ならびに22K00293の

“破戒”について＝封建制の過誤を正す＝  
十年ぶりで返り咲く 夏川静江

川端康成

大吉の詩集

風のむか

鼠を語る（中）

12 1  
• •  
30 2

作家の印象（

當選短篇小說 喜劇

三峰口

戯を語る(下)

鼠を語る(下) 藤澤衛彦

3

作家の秘密——「三作品のいのせ」

明日の探偵小説

江戸川乱歩

※以下の日に発行された号は所蔵がなく、未見。 1・

なかつた。	21。	25、	12、
	11。	26。	17。
4・	1・	7・	3・
12、	10、	6・	11、
21、	11。	8・	29、
22、	また、	17。	30、
26。	以下のことには文藝記事が	8・	5・
5・	24。	10・	11、
10・	10。	18、	25、
12・	12。	20、	6・
20・	20。		

助成を受けたものである。

(さいとう まさお／本学教授)